

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000143		
法人名	社会福祉法人寿宝会		
事業所名	グループホーム 真寿苑 Aフロア		
所在地	愛知県豊橋市牟呂町字東明治郷下1番地		
自己評価作成日	令和2年7月31日	評価結果市町村受理日	令和2年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2392000143-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
聞き取り調査日	令和2年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念である「全ては利用者様の笑顔のために」を基に、利用者様個々の生活リズムを尊重しながら安心して充実した日々を送って頂けるよう支援しています。職員が寄り添いながら見守る事で、出来る事を継続して行なって頂ける環境を整えています。職員が常に利用者様の目線に立ち、思いを共有しながら支援する事を意識し、出来ない部分をさりげなくフォローする事で利用者様の気持ちの部分の配慮に努めています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、基本的な感染対策を徹底してきましたが、施設全体の夏祭り(家族交流会)、地区のお祭り、地域サロン、運営推進会議中止など多くの地域交流の場がなくなりましたが、9月豊橋市役所作品展開催が決まり、参加に向け毎月季節の張り絵を作成しました。訪れた方々に作品や作成時の様子など見て頂きグループホーム真寿苑どんな所か知って頂く良い機会となりました。面会については直接会うことができなくなった為、Webでの面会をご用意し、感染対策と同時に遠方の方もいつでも会える環境が整いました。今後も入居者様、ご家族様のニーズにお応えし、認知症の方にやさしい街づくりの為、地域の方々と交流を図っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所

今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。

- ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
- ②軽減要件確認票
- ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の介護理念をより深く掘り下げ、職員一人ひとりに分かり易くする事で、より実践に繋げる様努めている。また法人の理念を下に自施設での活用している目標設定シートに落とし込み、より身近な物として感じて頂けるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、職員にてスーパーにおやつや買い出しに出かけたり、定期的に近隣へ清掃活動に出かけたりと1年を通して地域との繋がりを意識している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生、高校生の職場体験を受け入れながら、実際に支援の方法や接し方を見て頂き、認知症への理解を深めている。また、施設見学に来られる方々にグループホーム真寿苑の生活、取り組み、理念など施設を知って頂ける様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し、地域の区長や民生委員、利用者のご家族様など様々な立場の方々と情報交換を行っている。3月より新型コロナウイルス感染拡大防止の為、開催の延期、中止となっており、開催の目途が立ち次第取り組んでいく予定。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定の更新や運営推進会議の議事録等を長寿高齢課の担当者に直接報告し、情報交換を行う機会を設けている。市町村で実施される研修にも積極的に参加するよう努めています。今年度も豊橋市役所とGH連絡協議会にて作品展を開催致しました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する指針を基に、職員一同、利用者様を抑制したり、制止することないように支援にあたっている。また、委員会を始め、研修も定期的に行い、知識の習得にも努め新人職員に対しても個別にて指導を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、知識を学ぶと同時に入浴時や着替えの際には身体の確認を行ない、施設全体で防止に努めている。スピーチロックに対しても普段の朝礼時に注意喚起を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加するなど知識の向上に努めているが、職員全体に周知しているわけではない為、今後、施設内にてケアマネージャーを中心に勉強会などを開催する事で周知の徹底を図りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所の方針やあり方、取り組みを細かく説明を行う事で、円滑な契約を推進している。また、終末期や医療連携体制などに関しては同意書を使用し理解を求めている。消費税の10%引き上げに対しても食事代、光熱費など料金の値上げの説明を行い、同意書にて了承を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回サービス向上アンケートを実施し、結果を基に改善に努める事でより良いサービスの提供に繋げている。また、ケアプラン説明時に関しても、ご家族様の要望、希望を取り入れるよう配慮している。面会(web)時や電話にて連絡をする際にもご家族様の要望を聞くよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを意識し、定期的に個人面談を行う事で職員一人ひとりの思いや価値観を理解し、全体会議や朝礼時に施設の方向性と照らし合わせながら個々の意見や提案を取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員との距離感を意識しながら、職員個々の心身面に注意を払いながら関わりを持っている。また、個人面談の際には、向上心を持つ事が出来るよう働きかけている。又、職員に対して定期的にストレスチェック(コロナうつストレスチェック)を行い、メンタルヘルスの不調を未然に防ぐよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や意欲に応じて、施設内、外の研修に参加させる機会を設ける事で個々のレベルアップに努めている。今年度より新型コロナウイルス感染拡大防止の為、資料の配布やweb研修にて個別での研修に力を入れ、年間を通じてスキルアップできるような体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月毎に連絡協議会に参加する事で、他事業所との意見交換や情報交換を行なっている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、web会議に変更。参加をし引き続き職員同士の交流を図る事が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートを基に本人様の身体状況や生活歴、要望などを細かく把握する事で、サービス導入時には不安や心配事の軽減を図っている。新型コロナウイルス感染拡大予防の為、施設、自宅に入れない為、電話にて確認を行う事もあります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅でのご家族様の思いや考え方を傾聴し、施設入所にあたっての、希望、要望を出来る限り反映させながら、サービスを提供出来る様に努めている。また、入居後も連絡を密に取る事で少しでも早く安心して頂けるように配慮している。(昨年10月より入退去がない為、行えず)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状をしっかりと見極めながら、より迅速に対応するよう努めている。また、申込みの段階から緊急性の高い方に関しては、法人内の事業所と連携を図り、よりスムーズにサービスを提供出来る体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の盛り付けや、洗濯干しやたたみ等、日常的に行なう家事は職員と一緒に出来ない、出来る喜びや楽しみを共有すると共に、感謝の気持ちを忘れず、相互の関係性の構築を図っている。夕食後など、その日一日を振り返りながら珈琲など一緒に飲み、リラックスして就寝できるよう心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の状況や身体の状態などを毎月、手紙にて報告すると共に、面会時やお祝い事の際には利用者様とご家族様が楽しく過ごす事の出来る環境を整えながら関係性の構築を図っている。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、面会が減少。その都度ご様子など電話にてお伝えするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の中に馴染みの場所を作る為に近所の喫茶店へ定期的に出掛けていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、外出(飲食)は自粛中。近くの大西公園まで散歩に出かけたり、3Fテラスでお茶を飲まれる等、施設で出来る事を支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個々の性格をしっかりと把握した上で、関係性が良い方々に散歩に出かけたり、関係性が出来ない方々には張り絵など、集中して行えるものなど一緒に行うことでお互いの雰囲気が分かるなど配慮しながら交流場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、関係が途切れてしまわないように常日頃からご家族様との連絡を密に取り、信頼関係の構築を図っている。(昨年10月より入退去がない為、行えず)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを24Hシートに起す事により、目で見え統一したサービスを提供する事ができ、利用者様一人ひとりの思いを尊重しながらの対応に心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接記録やフェースシート等を使用する事で現在に至るまでの情報を把握し、24Hシートもその都度情報を更新。また、ご家族様にも情報提供して頂く事でより細かい生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	面接記録やフェースシート、24Hシート等を使用、更新する事で現在に至るまでの情報を把握し、また、ご家族様にも情報提供して頂く事でより細かい生活歴の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望される生活が実現するよう現在の状態に即した介護計画を作成し、職員全員で情報共有する事で、統一したケアを図っている。3ヶ月に1度モニタリングを行い、半年に一度見直しを施行、常に状態に即したプラン作成を心がけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や状態変化、職員や他者の方との関わり等、個別に24Hシートや介護記録に残す事でケアプランの見直しや、よりよいサービス提供に繋がるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、ご家族様の希望や状況を確認、今一番やりたい事や気になっている事等があればその都度対応し、利用者様一人ひとりとご家族様の満足を得られる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に一度豊橋南消防局より救命救急講習を受ける事や地域資源の活用に努めている。(今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、地域のイベントなど中止)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医は基より、ご家族様、本人様の希望にて、入居前にかかりつけ医だった医療機関も受診できるよう配慮している。施設とご家族様で連携を図りながら安心、スムーズに受診して頂ける環境を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が利用者様個々の健康状態を把握し、協力医との連携を図る事で往診記録や医療面での情報の充実化を目指している。また、看護職員不在の場合に事故や医療処置等必要である場合は必ず電話連絡を行い、看護師指示の基、行なうよう徹底を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での生活の情報や支援内容を医療機関に提供し定期的にお見舞いに行く事で常に状態把握に努め、施設での受け入れ環境もその都度お伝えしている。また、ご家族様との連絡も密に取る事でスムーズに退院できる様な体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様・ご家族様の希望を基に、かかりつけ医と連携を図りながら、個々の終末期に向けて早い段階から方針について話し合いを行い、ドクターとご家族様が直接話し合いをする場を設ける事でより納得して頂けるよう取り組んでいる。状態を往診等で常にNS、Drへ報告、安楽に過ごせるよう支援に努める。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時・緊急時に備えてそれぞれにマニュアルを用意し、全職員が周知出来るようにすぐに確認できる場所に掲示保管してある。また、定期的に救命講習の研修に参加し、実践出来るよう対策をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行い夜間想定、地震から津波まで様々なケースを想定しながら避難訓練を行っている。また、他フロアの事業所とも連携を図りながら施設全体での訓練にも努めている。毎年11月に行われる牟呂校区防災訓練会にも参加、小学生に対して福祉車両体験など参加して頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手を敬う気持ちを忘れず、利用者一人ひとりが深いと感じないような距離感に配慮しながらの対応や、居室(自宅)で過ごされる時など十分に配慮した支援に努める。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	24Hシートを基に利用者様個々のペースに合わせて支援が出来るよう配慮し、食事や入浴、就寝時間など出来る限り本人様の希望がかなう様に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの生活リズムを把握し、その日の気分や状態にあった支援に心がけている。行われたい時は少し時間を置いたり、日をまたいだと希望される時までお待ちする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を選び着て頂いているが、同じ服ばかり選ばれる方には、会話をしながら選択肢を増やし偏らないよう注意している。また介護されていると感じないよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様個々の能力に応じて、盛り付け、配膳、下膳など食事に関わる時間を設け、職員と一緒に行うことで、食事に対する興味や意欲の向上に努めている。また個人的に食べたい物を伺い、定期的にテイクアウトする事で、少しでも食事が楽しめるよう努めていきます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎日記録に残す事で全職員で把握し、苦手なものなどがある場合には嗜好品を提供し代替する事で摂取量の確保に努めている。食事が摂れない日が続くようであればNS,Drへ報告し対応を検討する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアの声掛けを行い、個々の状態に合わせて見守り・介助する事で清潔保持に努めている。必要時訪問歯科医にも状態を伝えたり、訪問歯科勉強会に月に一度参加、知識と技術を学び、他職員に復命する事により、より良いケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を下に個々のリズムに合わせた声掛けや介助を行なう事で、トイレに行かされているといった思いを少なく出来る様努めている。また、パットなどの排泄用品に関しては、必要時のみ使用する事や、常の見直しを施行、少しでも不快な思いの軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前のおやつにはなるべく乳製品の物を提供し、毎日の排便チェックを行う事で個々の排便のリズムを全職員が把握出来る体制を整えている。便秘が見られる方に関しては水分を摂って頂く事や、運動、腹部マッサージなど出来る限り下剤は服用しないよう努めている。また自然な排便が促せるよう、トイレに座って頂くよう声かけ、支援に努めていきます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	24Hシートに本人の思いや意向に沿った入浴が出来る様記入、声かけの場所やタイミングにも配慮しながらの支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24Hシートを活用しその人らしい過ごし方を記入、日中活動的に過ごす事が出来る様支援。また、昼夜問わず、その日の状態に合わせて休息する時間を設けたり、職員が寄り添う事で安心して頂ける環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康管理表ファイルや内服薬の説明書を個々の薬入れ・個人ファイルに挟み更新していく事で、いつでも確認する事の出来る体勢を整えている。また、受診先でも現在服用している内服薬の情報を医療機関に報告できるよう対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テラスでの園芸・塗り絵や作品づくりなど、個々に興味がある事に関しては継続して行なって頂ける様支援している。また、塗り絵や書道などの作品については、作品展、文化展に展示する事により、本人様のモチベーションを上げるよう継続して頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、現在は外出を自粛中。近所の公園やドライブのみ行い気分転換を図って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各ご家族様了承の下で金銭を所持して頂き、新聞や広告、インターネットなどで得た情報から利用者様自身が欲しいと思った物を購入出来るように支援している。また、もくせい授産所より月に一度シフォンケーキなど販売に来た際には買い物が出来るよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナ感染拡大防止の為、面会を自粛中。希望があればスムーズに電話が掛けられるよう支援している。また、携帯電話を利用されている方も見える為、充電などの管理を行い、いつでも話が出来る環境を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間に関しては、安全に居心地良く過ごして頂けるよう余計な物等はおかず、椅子やソファなどいつでも休める位置に配置、また季節に合わせて生花や作品などを展示する事で変化を楽しんで頂ける空間作りを目指している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スムーズに機能訓練など行えるよう廊下やフロアなど多くのスペースをご用意したり、3Fテラスや1F鯉の池までの散歩などで個々の時間を過ごして頂ける空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方のプライベート空間である為、使い慣れ思い入れのある物などを配置する事で少しでも自宅の延長になるよう努めている。また、安全に過ごせるよう室内の配置も本人様の現在の状態に合わせて、ご家族様と相談の上、出来る限り希望に添えるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、入浴場など広く設計されており、車椅子などを使用する場合でも安全に移動する事が出来る。またフロアの席など、なるべく慣れ親しんだ場所にて過ごして頂き、トイレや各居室に名前(希望された方のみ)などを張る事で視覚的に分かり易い様努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000143		
法人名	社会福祉法人寿宝会		
事業所名	グループホーム 真寿苑 Bフロア		
所在地	愛知県豊橋市牟呂町字東明治郷下1番地		
自己評価作成日	令和2年7月31日	評価結果市町村受理日	令和2年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2392000143-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
聞き取り調査日	令和2年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念である「全ては利用者様の笑顔のために」を基に、利用者様毎々の生活リズムを尊重しながら安心して充実した日々を送って頂けるよう支援しています。職員が寄り添いながら見守る事で、出来る事を継続して行なって頂ける環境を整えています。職員が常に利用者様の目線に立ち、思いを共有しながら支援する事を意識し、出来ない部分をさりげなくフォローする事で利用者様の気持ちの部分の配慮に努めています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、基本的な感染対策を徹底してきましたが、施設全体の夏祭り(家族交流会)、地区のお祭り、地域サロン、運営推進会議中止など多くの地域交流の場がなくなりましたが、9月豊橋市役所作品展開催が決まり、参加に向け毎月季節の張り絵を作成しました。訪れた方々に作品や作成時の様子など見て頂きグループホーム真寿苑どんな所か知って頂く良い機会となりました。面会については直接会うことができなくなった為、Webでの面会をご用意し、感染対策と同時に遠方の方もいつでも会える環境が整いました。今後も入居者様、ご家族様のニーズにお応えし、認知症の方にやさしい街づくりの為、地域の方々と交流を図っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所

今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。

- ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
- ②軽減要件確認票
- ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の介護理念をより深く掘り下げ、職員一人ひとりに分かり易くする事で、より実践に繋げる様努めている。また法人の理念を下に自施設での活用している目標設定シートに落とし込み、より身近な物として感じて頂けるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、職員にてスーパーにおやつや買い出しに出かけたり、定期的に近隣へ清掃活動に出かけたりと1年を通して地域との繋がりを意識している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生、高校生の職場体験を受け入れながら、実際に支援の方法や接し方を見て頂き、認知症への理解を深めている。また、施設見学に来られる方々にグループホーム真寿苑の生活、取り組み、理念など施設を知って頂ける様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し、地域の区長や民生委員、利用者のご家族様など様々な立場の方々と情報交換を行っている。3月より新型コロナウイルス感染拡大防止の為、開催の延期、中止となっており、開催の目途が立ち次第取り組んでいく予定。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定の更新や運営推進会議の議事録等を長寿高齢課の担当者に直接報告し、情報交換を行う機会を設けている。市町村で実施される研修にも積極的に参加するよう努めています。今年度も豊橋市役所とGH連絡協議会にて作品展を開催致しました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する指針を基に、職員一同、利用者様を抑制したり、制止することないように支援にあっている。また、委員会を始め、研修も定期的に行い、知識の習得にも努め新人職員に対しても個別にて指導を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、知識を学ぶと同時に入浴時や着替えの際には身体の確認を行ない、施設全体で防止に努めている。スピーチロックに対しても普段の朝礼時に注意喚起を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加するなど知識の向上に努めているが、職員全体に周知しているわけではない為、今後、施設内にてケアマネージャーを中心に勉強会などを開催する事で周知の徹底を図りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所の方針やあり方、取り組みを細かく説明を行う事で、円滑な契約を推進している。また、終末期や医療連携体制などに関しては同意書を使用し理解を求めている。消費税の10%引き上げに対しても食事代、光熱費など料金の値上げの説明を行い、同意書にて了承を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回サービス向上アンケートを実施し、結果を基に改善に努める事でより良いサービスの提供に繋げている。また、ケアプラン説明時に関しても、ご家族様の要望、希望を取り入れるよう配慮している。面会(web)時や電話にて連絡をする際にもご家族様の要望を聞くよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを意識し、定期的に個人面談を行う事で職員一人ひとりの思いや価値観を理解し、全体会議や朝礼時にて施設の方向性と照らし合わせながら個々の意見や提案を取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員との距離感を意識しながら、職員個々の心身面に注意を払いながら関わりを持っている。また、個人面談の際には、向上心を持つ事が出来るよう働きかけている。又、職員に対して定期的にストレスチェック(コロナうつストレスチェック)を行い、メンタルヘルスの不調を未然に防ぐよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や意欲に応じて、施設内、外の研修に参加させる機会を設ける事で個々のレベルアップに努めている。今年度より新型コロナウイルス感染拡大防止の為、資料の配布やweb研修にて個別での研修に力を入れ、年間を通じてスキルアップできるような体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月毎に連絡協議会に参加する事で、他事業所との意見交換や情報交換を行なっている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、web会議に変更。参加をし引き続き職員同士の交流を図る事が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートを基に本人様の身体状況や生活歴、要望などを細かく把握する事で、サービス導入時には不安や心配事の軽減を図っている。新型コロナウイルス感染拡大予防の為、施設、自宅に入れない為、電話にて確認を行う事もあります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅でのご家族様の思いや考え方を傾聴し、施設入所にあたっての、希望、要望を出来る限り反映させながら、サービスを提供出来る様に努めている。また、入居後も連絡を密に取る事で少しでも早く安心して頂けるように配慮している。(昨年10月より入退去がない為、行えず)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状をしっかりと見極めながら、より迅速に対応するよう努めている。また、申込みの段階から緊急性の高い方に関しては、法人内の事業所と連携を図り、よりスムーズにサービスを提供出来る体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の盛り付けや、洗濯干しやたたみ等、日常的に行なう家事は職員と一緒に出来ない、出来る喜びや楽しみを共有すると共に、感謝の気持ちを忘れず、相互の関係性の構築を図っている。夕食後など、その日一日を振り返りながら珈琲など一緒に飲み、リラックスして就寝できるよう心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の状況や身体の状態などを毎月、手紙にて報告すると共に、面会時やお祝い事の際には利用者様とご家族様が楽しく過ごす事の出来る環境を整えながら関係性の構築を図っている。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、面会が減少。その都度ご様子など電話にてお伝えするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最近では地域の中に馴染の場所を作る為に近所の喫茶店へ定期的に出掛けていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、外出(飲食)は自粛中。近くの大西公園まで散歩に出かけたり、3Fテラスでお茶を飲まれる等、施設で出来る事を支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個々の性格をしっかり把握した上で、関係性が良い方々に散歩に出かけたり、関係性が出来ない方々には張り絵など、集中して行えるものなど一緒に行うことでお互いの雰囲気が分かるなど配慮しながら交流場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、関係が途切れてしまわないように常日頃からご家族様との連絡を密に取り、信頼関係の構築を図っている。(昨年10月より入退去がない為、行えず)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを24Hシートに起す事により、目で見え統一したサービスを提供する事ができ、利用者様一人ひとりの思いを尊重しながらの対応に心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接記録やフェースシート等を使用する事で現在に至るまでの情報を把握し、24Hシートもその都度情報を更新。また、ご家族様にも情報提供して頂く事でより細かい生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	面接記録やフェースシート、24Hシート等を使用、更新する事で現在に至るまでの情報を把握し、また、ご家族様にも情報提供して頂く事でより細かい生活歴の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望される生活が実現するよう現在の状態に即した介護計画を作成し、職員全員で情報共有する事で、統一したケアを図っている。3ヶ月に1度モニタリングを行い、半年に一度見直しを施行、常に状態に即したプラン作成を心がけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や状態変化、職員や他者の方との関わり等、個別に24Hシートや介護記録に残す事でケアプランの見直しや、よりよいサービス提供に繋がるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、ご家族様の希望や状況を確認、今一番やりたい事や気になっている事等があればその都度対応し、利用者様一人ひとりとご家族様の満足を得られる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に一度豊橋南消防局より救命救急講習を受ける事や地域資源の活用に努めている。(今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、地域のイベントなど中止)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医は基より、ご家族様、本人様の希望にて、入居前にかかりつけ医だった医療機関も受診できるよう配慮している。施設とご家族様で連携を図りながら安心、スムーズに受診して頂ける環境を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が利用者様個々の健康状態を把握し、協力医との連携を図る事で往診記録や医療面での情報の充実化を目指している。また、看護職員不在の場合に事故や医療処置等必要である場合は必ず電話連絡を行い、看護師指示の基、行なうよう徹底を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での生活の情報や支援内容を医療機関に提供し定期的にお見舞いに行く事で常に状態把握に努め、施設での受け入れ環境もその都度お伝えしている。また、ご家族様との連絡も密に取る事でスムーズに退院できる様な体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様・ご家族様の希望を基に、かかりつけ医と連携を図りながら、個々の終末期に向けて早い段階から方針について話し合いを行い、ドクターとご家族様が直接話し合いをする場を設ける事でより納得して頂けるよう取り組んでいる。状態を往診等で常にNS、Drへ報告、安楽に過ごせるよう支援に努める。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時・緊急時に備えてそれぞれにマニュアルを用意し、全職員が周知出来るようにすぐに確認できる場所に掲示保管してある。また、定期的に救命講習の研修に参加し、実践出来るよう対策をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行い夜間想定、地震から津波まで様々なケースを想定しながら避難訓練を行っている。また、他フロアの事業所とも連携を図りながら施設全体での訓練にも努めている。毎年11月に行われる牟呂校区防災訓練会にも参加、小学生に対して福祉車両体験など参加して頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手を敬う気持ちを忘れず、利用者一人ひとりが深いと感じないような距離感に配慮しながらの対応や、居室(自宅)で過ごされる時など十分に配慮した支援に努める。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	24Hシートを基に利用者様個々のペースに合わせて支援が出来るよう配慮し、食事や入浴、就寝時間など出来る限り本人様の希望がかなう様に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの生活リズムを把握し、その日の気分や状態にあった支援に心がけている。行われたい時は少し時間を置いたり、日をまたいだと希望される時までお待ちする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を選び着て頂いているが、同じ服ばかり選ばれる方には、会話をしながら選択肢を増やし偏らないよう注意している。また介護されていると感じないよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様個々の能力に応じて、盛り付け、配膳、下膳など食事に関わる時間を設け、職員と一緒に行うことで、食事に対する興味や意欲の向上に努めている。また個人的に食べたい物を伺い、定期的にテイクアウトする事で、少しでも食事が楽しめるよう努めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎日記録に残す事で全職員で把握し、苦手なものなどがある場合には嗜好品を提供し代替する事で摂取量の確保に努めている。食事が摂れない日が続くようであればNS,Drへ報告し対応を検討する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアの声掛けを行い、個々の状態に合わせて見守り・介助する事で清潔保持に努めている。必要時訪問歯科医にも状態を伝えたり、訪問歯科勉強会に月に一度参加、知識と技術を学び、他職員に復命する事により、より良いケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を下に個々のリズムに合わせた声掛けや介助を行なう事で、トイレに行かされているといった思いを少なく出来る様努めている。また、パットなどの排泄用品に関しては、必要時のみ使用する事や、常の見直しを施行、少しでも不快な思いの軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前のおやつにはなるべく乳製品の物を提供し、毎日の排便チェックを行う事で個々の排便のリズムを全職員が把握出来る体制を整えている。便秘が見られる方に関しては水分を摂って頂く事や、運動、腹部マッサージなど出来る限り下剤は服用しないよう努めている。また自然な排便が促せるよう、トイレに座って頂くよう声かけ、支援に努めていきます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	24Hシートに本人の思いや意向に沿った入浴が出来る様記入、声かけの場所やタイミングにも配慮しながらの支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24Hシートを活用しその人らしい過ごし方を記入、日中活動的に過ごす事が出来る様支援。また、昼夜問わず、その日の状態に合わせて休息する時間を設けたり、職員が寄り添う事で安心して頂ける環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康管理表ファイルや内服薬の説明書を個々の薬入れ・個人ファイルに挟み更新していく事で、いつでも確認する事の出来る体勢を整えている。また、受診先でも現在服用している内服薬の情報を医療機関に報告できるよう対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テラスでの園芸・塗り絵や作品づくりなど、個々に興味がある事に関しては継続して行なって頂ける様支援している。また、塗り絵や書道などの作品については、作品展、文化展に展示する事により、本人様のモチベーションを上げるよう継続して頂けるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、現在は外出を自粛中。近所の公園やドライブのみ行い気分転換を図って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各ご家族様了承の下で金銭を所持して頂き、新聞や広告、インターネットなどで得た情報から利用者様自身が欲しいと思った物を購入出来るように支援している。また、もくせい授産所より月に一度シフォンケーキなど販売に来た際には買い物が出来るよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナ感染拡大防止の為、面会を自粛中。希望があればスムーズに電話が掛けられるよう支援している。また、携帯電話を利用されている方も見える為、充電などの管理を行い、いつでも話が出来る環境を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間に関しては、安全に居心地良く過ごして頂けるよう余計な物等はおかず、椅子やソファなどいつでも休める位置に配置、また季節に合わせて生花や作品などを展示する事で変化を楽しんで頂ける空間作りを目指している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スムーズに機能訓練など行えるよう廊下やフロアなど多くのスペースをご用意したり、3Fテラスや1F鯉の池までの散歩などで個々の時間を過ごして頂ける空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方のプライベート空間である為、使い慣れ思い入れのある物などを配置する事で少しでも自宅の延長になるよう努めている。また、安全に過ごせるよう室内の配置も本人様の現在の状態に合わせて、ご家族様と相談の上、出来る限り希望に添えるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、入浴場など広く設計されており、車椅子などを使用する場合でも安全に移動する事が出来る。またフロアの席など、なるべく慣れ親しんだ場所にて過ごして頂き、トイレや各居室に名前(希望された方のみ)などを張る事で視覚的に分かり易い様努めている。		